1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071400240		
法人名	医療法人 恵友会		
事業所名(ユニット名)	グループホーム ガーデンライフ		
所在地	和歌山県海南市船尾265-8		
自己評価作成日	平成29年2月18日	評価結果市町村受理日	平成29年5月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2
訪問調査日	平成29年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療法人であり、病院や老人保健施設が併設しており24時間、医療との連携が確保されています。地域でのボランティアの皆様の協力を得て、毎年公民館主催の文化祭(漆器祭り)に入居者様の作品を出展させて頂いています。また、地域学生の体験学習の受け入れなど、地域との交流を継続させて頂いています。『ガーデンライフ』の言われでもある、屋上には菜園や花壇があり、その時の四季折々の花や野菜が食卓を彩り、入居者様との会話も弾みます。昨年、入居者様の3分の1名様の入退居があり、気持ちを新たに家族様との関わりや交流を積極的に行っている所です。市や他の事業所と協力し合い地域での認知症の啓発に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

併設されている法人の病院や老人保健施設があるため、医師や看護師等と連携ができており、医療面では、利用者や家族は安心できる体制となっている。ガーデンライフの事業所名のとおり、屋上には、菜園があり、野菜作りが行われ、食卓に上るなど、利用者が食事や共用空間で居心地よく過ごし、楽しめるよう工夫している。職員の話し合いのもと作った「のんびり・ゆっくり・〇(まあるく)ゆこう」の理念が感じることが出来る空間がそこにはあり、心穏やかにのんびり過ごせる環境づくりを職員同士が高めあいながら取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の他に『のんびり・ゆっくり・〇(まあるく)ゆこう』の独自の理念を作り、入居者様には住み慣れた、地域の中で安心してゆっくりと心穏やかに、笑顔の絶えない日々を過ごして頂けるよう支援に努めている。	利用者と職員が輪になれるようにと想いが込められた理念に添って、職員自らのんびり・ゆっくりケアができるよう日々心がけている。また、その理念を共有し、お互いに確認し合い実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地域のボランティアの方や婦人会の方の協力を得て、毎年公民館で行われている文化祭に出展させて頂いています。地域の学生の体験学習の受け入れなど積極的に取り組んでいます。	地域の中学生の体験学習やお茶会を通して、地域と交流ができるよう努めている。また、近くのお店に買い物に行く際には、日常的に交流ができるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターを始め、地域の事業所同士で『認知症サポーター養成講座』の開催に努めています。『認知症になっても地域で安心して暮らせる街作り』を目指し、認知症カフェやサロン作りに努めています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催、家族様や地域の代表の方、市の職員の方に参加して頂き、日々の暮らしぶりや行事・事故や苦情、評価への取り組みを報告。委員様には意見や要望、提案を頂いている。H27年4月より、サービス付き高齢者向け住宅も参加している。	2か月に1回運営推進会議を開催し、委員から出た意見を職員間で検討し、報告を行い、サービス向上に活かしている。報告の際は、ケアの内容を写真付きで説明し、わかりやすく伝えるよう工夫し、また、実際に事業所で見もらった例もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の方が居ており、市の方との連携を取り合っています。地域包括支援センターとも、入居待機人数や事例などや、事業所の実情などを相談、協力関係を築いています。	地域包括支援センターとは相互に連絡や相談を行い、入居待機人数等の相談や情報提供を行っている。また、生活保護の方については、市の担当者と連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	以前は玄関の鍵や、オートロックの扉(2ヶ所)の鍵もかけずに出入り自由であった。昨年の入居者様の入退去に伴い、見直し老健側の扉を開けっ放しにし、入居者様を初め家族様や他部署のスタッフ、老健に入居されている方などが、自由に出入り出来る様にしている。やもを得ず施錠する時は、施錠が身体拘束である事を職員は認識している。	職員それぞれが身体拘束をしないケアについて理解しており、スピーチロックについても、職員間でその都度、振り返りながら取り組んでいる。併設の施設と通じる扉については、開放することによって、利用者同士の行き来も自由にできるため、職員は、そっと見守るようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特に言葉遣いを初め、入居者様1人1人を尊重したケアを目指しています。また、職員同士が注意し合える環境に日々努めています。院内外の研修に参加する機会も設けています。参加者にはミーティング時に内容をフィードバック、職員1人1人が認識出来る様に意識付けしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、入居されていた入居者様が利用されていたが、今は退居され利用していない。年々内容も変わって来ているので、研修への参加を促している。参加職員には、伝達研修にて職員同士で勉強会など行い理解を深めていくように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	開設当初と変わらず口頭・文章で説明させて頂いています。家族様には確認を行い納得されたらサインを頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口・担当を設けています。家族様の来所時には利用者様の日頃の様子を報告したり、コミュニケーションを積極的にを行い、意見や要望を出して頂ける雰囲気作りや環境づくりに努めています。	相談窓口・担当を設け、利用者や家族等が、普段から意見を出しやすい環境作りに取り組んでいる。利用料の支払いの際には、事業所に来訪してもらい、手渡しで受け取ることで、家族等と積極的にコミュニケーションをとっている。	契約時に、外部者に意見を表せる機会があることを説明し、書類にも記載すると共に、事業所内にも掲示するよう期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、職員ミーティングを行っている。朝の申し送りの時には情報の伝達や、意見交換、入居者様の気になるところなど話し合う事もある。不参加の職員には伝達ノートがあり、目を通してもらい、見たらサインをするようにしている。法人の理念を唱和し職員1人1人に意識付けを行っている。個別面談も不定期に行ない、個人の想いや要望など聞く機会を設けている。	職員からの意見は個別にも対応するなど、面談以外でも管理者に意見を伝えることができ、意見を出しやすい環境作りを行っている。また、時間帯ごとの人員体制やイベント時の気になることについても職員の意見を反映し、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人がライフワークバランスを取り入れてあり職場環境の改善に努めている。パート、準職員が多い中、資格習得や、業績により準職員や正職員へと昇格など制度があるが、出来るようにもう少しは働き掛ける必要がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員対象に院内外の研修への参加する機会が確保されている。研修会への参加などの案内は、手に取って見れる場所に置いてある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議やキャラバンメイトの啓発に参加。また、同業者とは、分からない事があれば連絡し合うなど、交流や情報交換を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、本人様の自宅であったり、サービス事業所や、入院先など直接お会いして、話をしながら本人様の想いや、考えなど聞くようにしている。また、事前にホームに足を運んで頂いたり、こちらからも訪問し不安にならないように、雰囲気や職員の顔など覚えて頂ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様にも入居前には事業所の見学や面談を行い、不安や要望をお聞きしている。入居後は家族様には近況報告や支援の方向性など一緒に考えケアに生かせるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様の『その時』は、在宅介護が限界になり介護負担が多くなってきている事が多い。本人様を始め家族様とも話をしながら、必要な支援を見極め共に取り組み、安心して頂けるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昨年、3分の1の利用者様の入れ替えがあり、新しい風が吹く中、信頼作りに努めている。また、本人様の出来る事に目を向け、お互いに助け合い・楽しく生活を送れるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お支払などで月1回は来所して頂ける機会を設けている。必要に応じて電話での報告や相談を行っている。行事の参加などは前持って連絡して参加して頂けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来るだけ馴染みの所へ行けるように努めているが、お互いに高齢ということもあり疎遠になりつつあり、会えていなかったり、行けないのが現状である。職員だけでは限界があるので、家族様にも協力を得て実現出来ればと思っている。	地域の利用者が多いため、知人の来客もあり、家族への電話等の支援にも努めている。また、年賀状や暑中見舞いを書いて出したり、家族等との関係も途切れないようお正月の外出などの支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の邪魔をしないように職員は見守っているが、耳が遠くて聞こえず、話が合わない時には職員が間に入り対応している。また、1人になりたい時には、本人様の意向を尊重している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方の家族様には、今も運営推進会議の委員様や、お茶のボランティアの先生として来所して頂いている。以前記入したグリーンケアが、行なえていないので、少しでも早く実現できるように努めたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前・入居当初・入居後も日々の暮らしを支援していく中で想いを聞くように努めている。自分から想いを言えない困難な時は、職員がその人の想いを考えたり、家族様に意向を聞き本人様本位なのかどうか見極めるように努めている。	日々の暮らしの中で、思いを聞き汲み取っている。困難な場合についても、職員は、ゆっくり声をかけることによって、表情やしぐさで感じとりつつ、思い込んでしまうことに注意しながら、本人本位に検討し、たまに発してくれる言葉などから確認もしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントにより本人様・家族様・担当ケアマネより情報を得ている。入居後も本人様や、家族様にお聞きして情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ない事に目を向けるのではなく、少しでも出来る事に目を向けて、無理なく本人様の今持っている力が発揮出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題が生じた時には勿論、4ヶ月に一度、家族様を始めケアマネ、関連スタッフと、今の現状や今後の課題、家族様の意向や要望をお聞きしてモニタリングを行い、本人本位を重視した介護計画作成に努めている。	本人、家族、病院関係者、介護支援専門員、管理者で、日時を決め、話し合っている。主治医からの伝達事項についても伝え、それぞれの意見を反映し、現状に即した計画を作成している。課題が生じなくても4か月に1度は話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個々の生活記録に記入。介護計画の評価は各部屋担当が行っている。4ヶ月に1度のモニタリングを始め、各部屋担当者からの発信によりカンファレンスを行い、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設している病院の付き添いや、他の病院（整形外科・歯科・婦人科）などの付き添いも行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で活躍されている押し花の先生を始め、お茶の先生方にボランティアに来て頂いている。終了後は、ゲームやカラオケ・折り紙などで交流し楽しい時間を過ごしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院が併設しているので24時間連携が確保されている。入居者様の殆どの方が併設している病院の医師である。2週間に1度訪問診察を受けている。また、家族様の要望があれば他の病院への紹介や診察の同行などさせて頂いている。	病院が併設されているため、利用者のほとんどが法人の病院をかかりつけ医としているが、婦人科や整形外科については、家族や職員が付き添い、口頭で状況を説明し、支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設している病院を始め、透析室の看護師や、老健施設の看護師との協力体制が築けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携室があり、病院との連携が確保されている。情報交換や共有が出来る為、入退院時の支援がスムーズに行えている。また、他病院の連携室との交流もあり、空き情報や情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に『看取りの指針』について説明させて頂いている。初めにあらかじめ家族様の意向をお聞きしているが、重度化や、急変時などその都度、変化がある時には家族様と再度話し合い意向をお聞きしている。また、状態により医師に相談、話し合いに入っている。	入居時に、「看取りの指針」について説明しているが、本人・家族は重度化や終末期について、気持ちに変化が生じることもあるため、その都度家族と話し合い、意向を確認している。併設の病院があるため、医師に相談しながら支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内での、急変時や事故発生時の訓練は、今は出来ていない。機会を見つけて訓練を行い職員1人1人が、慌てず緊急時に対応出来るように努める。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、法人全体の防災訓練に歩ける入居者様と参加、法人全体の防災マニュアルがあるが、事業所独自のマニュアルもある。昨年、海南市消防と病院、老健施設との合同訓練に参加。今年も参加の予定になっている。	昼夜間を想定した、防災訓練を実施し、食料や水などを備蓄している。実際に避難した経験もあり、運営推進会議などでも議題にあげり話し合っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉の理解が難しくなっている事が多い中、その人1人1人に合わせたトーンや、ゆっくりと分かりやすい言葉掛けを心掛けている。地方出身の方にはその方の方言を使用し親しみやすく、また相手の顔や目を見て話をしたり、手を握ったり背中をなでたりと安心して頂けるように努めている。	一人ひとりの人格を尊重し、状況によって、呼称の使い分けをして対応している。本人が望む呼び方であっても、家族にも確認している。また、トイレの際などは、より誇りやプライバシーを損ねないよう、一人ひとりに合わせた声かけを行っている。また、個人情報の取扱いにも十分注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	二者択一などで出来るだけ入居者様の意志で決めてもらうように支援しているが難しくなっている。時にさり気なく声掛けや促しなど、またその方の立場に立ち職員同士で話し合ったり、家族様の協力を得ながら決めさせて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日1日を楽しく穏やかに過ごして頂くために、事故や入居者様同士のトラブルに気を配りながら、その人のペースで過ごして頂いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で選んだ服を着て頂いている。服装が合わない時には、さり気なく声掛けと一緒に選んだり、介助の方にはどちらが良いか選んでもらい着て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時々、数名の方が職員と一緒に食事の用意を行う時があります。献立など何が食べたいか、何が好きなのかさり気なく聞き食卓へ。会話が弾む事もあります。入居者様の状態に合わせて細かく刻んだりトロミを付けたりと嚥下状態でミキサー食を提供。糖尿食の方の食事は病院の栄養士さんに指導を受け提供、また、相談やアドバイスを頂く時もある。	食事を楽しむことができるよう屋上の菜園で取れた玉ねぎやブロッコリーが食卓に並び、利用者の中には、包丁を使ったり、下ごしらえをするなど、一緒に準備、片付けなどを行っている。たこ焼きやホットケーキなどをおやつとして作ることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量はチェック表にて管理している。食事やおやつ以外にも飲みたい時に飲んで頂いたり、入浴後やリハビリ後や10時の時間に提供、水分補給に努めている。食欲不振時には本人様に食べたい物をお聞きし『食事』にとらわれず食べたい物を食べて頂いたり、家族様に持って来て頂いたり、少しでも食べて頂けるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自己にて出来る方には声掛けや見守りを行い、介助の方には声掛けし一緒に行っている。週2回、洗浄剤で義歯を消毒している。噛み合わせや義歯が合っていない時には訪問歯科医に連絡し治療をしてもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表にて個々の排尿パターンを把握、落ち着きのない方の行動に目を配り適宜に声掛け、トイレにお誘いしている。夜間、紙パンツやPTイレを使用している方も日中はトイレにお連れして介助、使用して頂いている。	チェック表で目安を把握し、自分で伝えることができる利用者や合図を送ることができる利用者があるので、そっと一緒にトイレに行くなどし、一人ひとりの力が落ちないように取り組んでいる。夜間は、ゆっくりそっと見守りながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	はちみつ湯や冷たい牛乳・ヨーグルト・水分など、たくさん取ってもらうように提供したり、食物繊維の多い食べ物を摂取出来る様に献立に取り入れる工夫をしている。個々の排便状態をチェック表にて管理、記録している。時には、医師に相談し投薬にてコントロールする時もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の希望に沿うように好きな時間に入ってもらいたいのですが、介助の方が多くなり曜日を決めて入ってもらっています。軽度の方には声掛けを行い、入ってもらっています。また、入る・入らないは本人様の意志に沿って支援しています。	入浴が楽しめるようゆず湯などを行い、定期的な通院やリハビリがあり、入浴の曜日や時間が固定する利用者もいるが、その他の利用者には時間をずらすなどして個々にそった支援ができるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	メリハリのある生活を送れるように、ある程度の目安はあるが、起きたい時に起きてもらい、寝たい時に寝てもらっている。日中でも本人様の希望であれば居室にて休んで頂いている。また、本人様の体調を見て休む事を勧める時もある。出来るだけ体を動かして安眠に繋げる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が管理し内容や副作用の説明書はすぐに見られる場所に置いてあり、確認できる様にしている。訪問診察事には入居者様の体調や様子を報告。医師に相談し投薬して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の得意なことや好きなことが出来る様に職員がサポートしながら、楽しんで頂ける様に支援に努めている。また、家族様にも協力して頂き、外食や外出など楽しい時間を過ごして頂けるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日とはいかないが、時々 四季の移り変わりを楽しみながら散歩に出掛けたりしている。家族様の協力で一部の方は外出が出来ている。今後も家族様の協力を得ながら外出の機会を増やして行きたい。	近くにお地藏さんやみどりの広場があり、同一法人内の事業所には、カフェスペースもあるため、一人ひとりの状況に合わせて外に出かけられるよう支援している。また、気候のよい時には、屋上の菜園で、野菜作りや日光浴を行い外の空気を感じることが出来るように取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	『お金』を持っているだけで安心されます。家族様には『紛失』するという理解と承諾をして頂き、安心する金額を持って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年2回、年賀状や暑中見舞いなど家族様やボランティアの先生方に宛に送っている。以前は各居室に電話がついていたが今は、つけていない。希望があれば事務所の電話を使ってもらいダイヤルは職員が回している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	隣には幼稚園や小学校があり、賑やかな子供たちの声が聞こえてくる。窓からは暖かい光が入ってくる。その時々を季節を感じてもらいたいので、雛祭りや五月の節句、クリスマスなどの飾りつけや、各居室の表札の所に月々の飾りをつけて季節感を出し、五感を刺激するように努めている。	各居室の表札には、季節感がわかるよう雛祭りや桜の花びらなどの飾りつけがあり、また、ソファに座って洗濯物をたたんだり、居間では、料理の下ごしらえやぬりえをするなどそれぞれが居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にはどこでも休めるように、椅子やソファを置いて好きな所に座ってもらっている。1人になりたい時や、気の合う者同士と一緒に洗濯物を畳んだり、話をしたり楽しい時間を過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には家で使用していた馴染みの物、カーテンや家具類・食器など依頼するが、ごくわずかで、事業所の物を使用したり新品を購入されることが多い。ベッドの高さやタンスの位置など本人様の動きやすい様に考え配置や調整を行っている。	居室には、洋服タンスや椅子、テレビや写真などを持ち込み、好みの小物などを置くことによって居心地よく過ごせる工夫をしている。各居室には、内側からカギを締めることができ、また、備え付けの洗面台や大きい窓もあり、ゆったり過ごせる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札をトイレには張り紙をして分かってもらえるようにしている。		